

AVvillage

エー&ヴィヴィレッジ

2004年5月11日 (5月号) No.67

オーディオとビジュアルを積極的に情報発信する隔月誌

オーディオマニアのための音質世界一のハンダを製作

2004
No.67

5

読者のみなさま
ありがとうございます!



熱血提案・太田一穂さんが精魂を込めて作り上げた「世界一」を自負するハンダです。いま銀入りハンダが様々な問題を露呈している中で、安全でなおかつマニアが本当に喜ぶ音の良いハンダとは何なのか！ 持ち前の熱情をこの一点に絞って開発したハンダです。名付けて愛称「ニッカス101」つまり「錫・銅・ニッケル合金+天然松ヤニ」製の鉛フリーハンダです。

3次元立体音場スピーカーの第一次試聴会を実施

光陽電気が推進していた3次元立体音場スピーカーの継承を目指して、さらに新しいカイザー理論を組み入れた6角型スピーカーが、ついに実験試聴会を開催するところまでやって参りました。エンゼルポケットを満員にした試聴会は、10万円くらいまでなら買いたいという声が強く聴かれました。写真は熱心に講演するカイザーサウンドの貝崎静雄さんです。



試聴会

電源ケーブル20本

いまオーディオ業界は電源関連のPSE表示で大揺れ。でもあえて電源ケーブルを試聴してみました。リスナーは藤岡誠、高橋和正、神崎一雄の3氏です。

視聴会

プラズマディスプレイ7機種

今回はお座敷であぐらをかいて、一般家庭の雰囲気です。プラズマ視聴会をしてみました。視聴者は麻倉怜士、長谷川教通、河村正行の3氏です。



ヴァイオリンを使ったスピーカーの研究



ヴァイオリンをスピーカー代わりにする手法は既にいくつかのグループが行っていますが、ついに江川工房でも始まりました。さて江川工房のヴァイオリンはどのように鳴っているのでしょうか？

DPAT01記事、さらに発展
電源事情を測定することが可能になった!

好評!! 体験レポート
充実!! 読者だより



2004年を切り開く!!
コスモヴィレッジ・インターネット
どこよりも早く・どこよりも簡単
充実したニュースをお楽しみ下さい
<http://www.avvillage.com>



いちめんの菜の花

いま太掉の津軽三味線は大いにクローズアップされていますが、西潟昭子さんの細棹三味線「いちめんの菜の花」を聴いたら、貴方も細棹の虜になるでしょう。津軽三味線は犬の皮で作る、細棹三味線は猫の皮で作ることを知っていましたか？ 細棹三味線を鳴らしていると猫が寄ってくるのを知っていましたか？

エンゼル・ポケット・秋葉原



ローカルメールの
ショールーム&即売所
そしてA&Vvillageの
情報交換室、各種催し実施
ご来場をお待ち申し上げます。
TEL 03-5294-3501

Angel present
Local mail order

注目の「フライングモールド」アンプ

DAD-M1とM100PROを比較試聴する

●村井裕弥

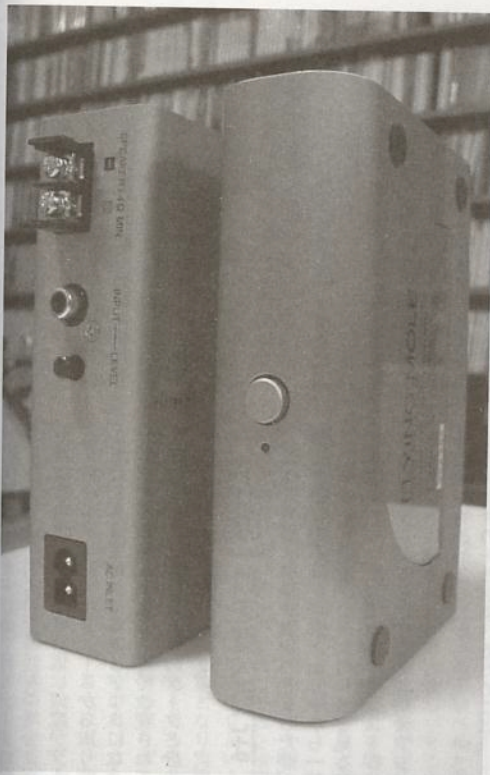
いきなりのホームラン!

フライングモールドというブランドを知らない方、本誌読者の中にはもういらっしやらないのではないかと。会社設立は'00年10月だけど、それまで某大手でハイエンド・アンプを作っていた技術者ばかりの集団だから、デビュー作DAD-M1からいきなりのホームラン! 予想より桁多い数の台数が売れ、今でも売れ続けているのだと聞く。(最近いろんなメーカーの人と話すと、実は中身にフライング

モールドが入ってるっていう情報もメチャクチャ多い)

ボクは昨年の初夏、初めてM1を自宅試聴させてもらったのだが、1個4万2千円、ペアで8万4千円(いずれも税込)という価格をはるかに超えた音に、ひたすら圧倒され続けた。特に4個使ったときの富田勲「惑星」(DVDオーディオ)ね。

それがきっかけで、8月終わりには浜松の本社へ突撃! 試聴室で聴いたJBL4345の音に度胆を抜かれたなんて



これが驚異の大ベストセラー、DAD-M1

いう話は、すでに他誌に書いた。(4345って、4344とほぼおなじで、ウーファーだけ特大のモデルだよ。あれがプリプリ鳴ってた) ああ。あの音を皆さんにも聴いていただきたい...

もちろんお話もたくさん聞かせていただいたが、特に興味深かったのは、

■高級AVアンプはたくさん出ているけれど、所詮は一体型。モノラル・パワーアンプのような音は出せない。

■世の中にデジタル・パワーアンプのICは掃いて捨てるほどあるが、本当のハイファイ用はまず存在しない。

■ICのことがよくわかっていて、オーディオ用の電源にもくわしく、しかもアンプとしてまとめあげることのできる技術者なんて、滅多にいない。

この3つ! DAD-M1の良さはまぐれ当たりじゃないんだな。それがよくわかった3時間だった。

DAD-M100PROがわが家にやって来た!

あのとときは、いろんな試作機を見せてもらったが、その中で特に気になった存在が近日発売DAD-M100PRO!

なぜって、DAD-M1は電源ケーブル挿し込み口がメガネ・タイプ。スピーカー・ターミナルはネジ止め。当然、使えるケーブルが制限されてしまう。そこへ行くと、M100PROはプロを名乗るだけあって、電源ケーブル挿し込み口はすべてIEC(3P)。その上で、以下の3モデルが用意されている。

【C】アンバランス入力+ネジ止めスピーカー・ターミナル

【H】アンバランス入力+フットコング通っぽいスピーカー・ターミナル(バナナにも対応)

【B】バランス入力+ノイトリックス社のスピコン

ちなみに、今回わが家に届けられたのはHT。これをいっしょに送られて来たDAD-M1と聴き比べてみようじゃないか。

まずはDAD-M1から

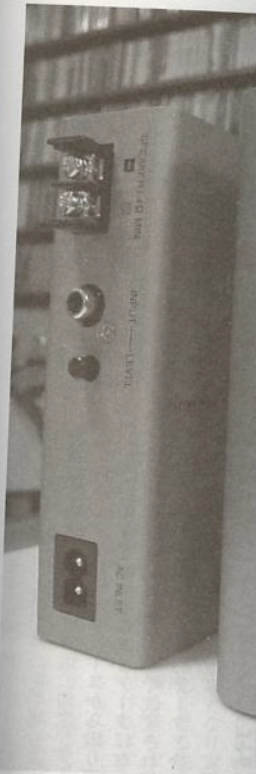
いやあ。しかしいつ見ても小さい。しかし、実際持ち上げてみると意外にズッシリ(70g)。何たって、筐体はアルミなのだ(だから、M100PROより高価だったりする)。

最初は、とあるプリアンプのあとについで音出ししてみたのだが、なんか今ひとつハッキリものを言ってくれない感

「今そのプレーヤーと小さなアンプ2個だけで鳴らしてるんでしょ。この音でいいんじゃないの? そうすれば、部屋

ねたが、そこにある種の「ファジーな魅力」が加わって、むしろ親しみやすい音になっている(多少やわやわ筐体と太目電源ケーブルのおかげか。温度感も少し上

から) M100PROにはこういう可能性もあるというところで、話をまとめておこう。(おととい、中村さんでもこっやって使えば良かったなあ)



これが驚異の大ベストセラー、DAD-M

最初は、とあるブリアンプのあとについで音出してみたのだが、なんか今ひとつハッキリものを言ってくれない感じ。マーカス・ミラーの前に、霧がかかっているよ。

「CDプレーヤーからの出力を直接つないでみた方がいいんじゃないの？」

うるさいなあ。——よしよっと。780gだと、ピンケーブルのテンションに負

けちゃって、倒れちゃう(笑)ぞ。かと言って、横置きにしようとする、ケーブルのテンションで浮いちゃうしなあ。

おっ！ さっきとは全然違う音だ。

「エレキベースの締りと弾け方が、まるで別物じゃない」

どうやら台所仕事しながらでもわかるほどの違いらしい。(ただし、どんな場合でもブリを使わない方が良いという話ではないから、誤解のなきよう)

調子が出て来たところで、高橋竹山「津軽三味線」をかける。——うん。あらさがしをしてやろうと思って、けっこう

むきになって聴いたのだが、なかなか言葉が見つかからない。ほんの少し細身で軽やかな音。描写のペン先、やや細め。ただし神経質ではない。もちろん鳴らしているスピーカーはルーメンホワイトだ。

価格差、何と73.8倍！ ふだんの音と全く同じではないが、特にこちらが劣るとも思えない。

ASCの熊本合宿ライブ「雪の魂」(参加者限定配布)もかける。清澄感、清潔感、正確さ、明解といった言葉が適切？ あっさり味というのとはちいと違う。過剰な色気を求める人には向かないかも。

ASCの熊本合宿ライブ「雪の魂」(参加者限定配布)もかける。清澄感、清潔感、正確さ、明解といった言葉が適切？ あっさり味というのとはちいと違う。過剰な色気を求める人には向かないかも。



DAD-M100PROはM1より2まわり大きい



DAD-M100PROの背面。電源ケーブルを選べるところがミソ

「でもそれはケーブルの力であって、M100PROの力じゃないわよ」ウチのやつ、きょうはやけにうるさい！しかし、M1ではやろうと思ってもできないんだから(何たって、メガネ型インレットだ

「マスター！ボリュームが無いと使いづらいよ」という方もいらっしゃるだろうが、ボクは多少使いにくくても「鮮度」を大切にしたい。その内、デジタル・ブリを出しますから」とフライングモールの人が言っていたから、それまでの辛抱だ！

M100PROってどんな音？

おととい、中村匠一(深川響司)氏のお宅でDALLのヘリコン800を鳴らした話は17頁参照。何たってあのFASTのセバレットに勝負を挑んだのだ。(価格差13.8倍だよ。フツーそんなことさせないって)さすがにFASTと互角までは行かなかったが、ヘリコン800をあれだけ高密度に鳴らしたのだ。否が応でも期待はふくらむ。試聴は「雪の魂」から。——うん。これはなかなか興味深い。清澄感、正確さ、明解」と言葉を書き連

ねたが、そこにある種の「フアジーな魅力」が加わって、むしろ親しみやすい音になっている(多少やわな筐体と太目電源ケーブルのおかげか)。温度感も少し上がった？ 「デジタル・アンプの音って、なんかマジメくさって嫌だ」というマニアも、これならイケるのではないかな。試しに、付属電源ケーブルを引っこ抜いて、オーディオFSKの3メートルものをお尻に突っ込む(これで、ピンケーブル、スピーカーケーブルなど、すべてがオーディオFSKに統一されたことに)。そうすると、さっきM100PROの個性かと思った音像のソフトフォーカスや定位のあいまいさが一掃され、ハッキリした物言いの中に土臭い味わいが漂うようになる。

「おおお。ぶりぶりしたベースの弾み方が、さっきとはまるで別物。低域の腰の座りと量感にもしびれる。品位が向上し、高価な楽器に持ち替えたんじゃないやなろうかというほどの差。語りも、まるでそこに井上博義さんが立っているかのよう。」

もし今からオーディオを始めるとしたら

いかにも唐突な振り方だが、個人的にはDAD-M100PROという選択は「大いに有りかな」と思う。

DAD-M100PROがわが家に来て来た！

あのときは、いろんな試作機を見せてもらったが、その中で特に気になった存在が近日発売DAD-M100PRO！

まずはDAD-M1から

いやあ。しかしいつ見ても小さい。しかし、実際持ち上げてみると意外にズッシリ(780g)。何たって、筐体はアルミなのだ(だから、M100PROより高価だったりする)。

「ノラ・ジョーンズ」(SACD) 2曲目などもかけるが、わざとらしい演出はしてないのに、濃厚な香りがじわーっと迫ってくる稀有な鳴り方。ひよっとすると、わが家で聴いた「ノラ・ジョーンズ」の中で一番いい音かも。

ラトルがウィーン・フィルを振ったペーターヴェン交響曲全集などもかけてみる。リズムが明解な上に細部がしっかりと見渡せ、それでいて主役・脇役の区別がしっかりと音。これって、こういうソフトラだったの？！